



子供に合った勉強法 「深く」or「浅く」

1 学習スタイルにも個性がある

(1) マルチタスク型(水平型)学習…広く浅く認識するタイプ

- 様々なことに自然とアンテナが張られる
- 同時処理や同時進行ができるが、拡散している分、1つのことに深く集中して取り組むことが難しい
- ＜マルチタスク型の学習スタイル…関係性や全体構造を把握することに便利な学び方＞
- 「図にしてまとめる」「構造を見える化させる」必要がある
- 全体像が見える
- 自分の興味関心領域に出会う確率が上がる



例① 歴史の学習

漫画で全時代をサラッと読む(全体像をつかむ)
→時代ごとに順番に学習する

例② 他の学習

目次で全体像を見る→今学んでいる部分を確認しながら進めていく



(2) シングルトタスク型(垂直型)学習…狭く深く集中するタイプ、一点集中型 探究的な学び ＜シングルトタスク型の学習スタイル…分野を絞り、深く掘り下げていく学び方＞

- 一つのことを深く学んでいくと、その周辺分野を学ぶ必要が出てくる
- 他分野に興味を広がっていくことがある

例① 歴史の学習

全時代の中で興味がある部分だけを学ぶ
→学びの範囲が徐々に広がる
→全体を理解する



2 マルチタスク型の子供へのアプローチ

- ① 目次の全体像を見る
- ② 一つ終わったら目次の項目の消し込み作業を行い、それを繰り返す
- ③ 自分がどの部分を学習しているのかを把握できるようにしておく
→全体の中の、自分のポジションを明確にしておく
- ④ 「面白い」と思う部分が出てきたら、そこだけを一時的に深く学ぶ
→面白いからやる→「考える」状態がやってくる



3 シングルトタスク型の子供へのアプローチ

- ① 興味関心のある分野を深く学ぶ
- ② 興味の対象が広がっていけば、その流れに合わせる
- ③ 興味のない分野を学習しなくてはならないときは、ポイントを絞り込む

